

社会貢献活動の推進

良き企業市民として地域・社会の持続的発展に貢献するとともに、自らも成長することを目的に、「安全・安心」「人づくり」「地域・社会の活性化」「環境」を重点テーマとして、経営資源(ヒト・モノ・ノウハウ等)を生かした社会貢献活動にグループ一体となって取り組んでいます。

被災経験の継承

震災資料保管庫は「地震で失ったもの、伝えるべきもの、そして生かさなければならぬもの」をコンセプトに、阪神・淡路大震災の被災構造物を展示しています。また、地震発生から全線復旧まで、623日間の緊迫した時間と関係者の対応を伝える展示、震災を教訓にした新技術なども紹介しています。専門技術者や教育関係者だけでなく一般公開を行っており、多数のお客さまにも来館いただいています。2025年1月に震災から30年を迎えましたが、阪神高速グループは、これからも震災資料保管庫を安全・安心の原点を見つめ続けるための礎にし、被災経験を確実に継承していきます。



震災資料保管庫案内の様子

外部団体との連携・協働による社会貢献活動

阪神高速グループでは、地域・社会の持続的発展とSDGs達成へ貢献することを目的に、「阪神高速 未来(あす)へのチャレンジプロジェクト」を実施しています。本プロジェクトでは、阪神高速道路沿線で行われる公益的な市民団体の事業活動を応援しており、2024年度には8団体の事業に総額400万円の助成を行いました。今後も、本プロジェクトを通じて、地域・社会の持続的発展に貢献できるよう、明るい未来の共創に努めていきます。



📖 P.68 : VOICE

VOICE

CFRP板を接着したストップホールの疲労設計手法の確立

この度は、2023年度阪神高速若手研究者助成基金による研究助成をいただきました。当方は、2022年度まで企業に勤めた後で大学に戻ったため、研究活動としては4年ブランクがあった中で、研究を立ち上げる必要がありました。そのため、実験活動に必要な基本的な備品(動ひずみ計・ブリッジボックス・計測用のノートパソコン)や実験に用いる試験体など、多くのものを準備する必要がありました。本基金による助成のおかげで、滞りなく準備ができ、無事に研究を軌道に乗せることができました。本当にありがとうございました。

※「阪神高速若手研究者助成」とは、阪神高速道路(株)、(一財)阪神高速先進技術研究所および(一財)阪神高速地域交流センターが実施している、都市の高速道路に関連する分野における若手研究者の育成を目的とした助成制度のことです



京都大学大学院
工学研究科
助教
松本 理佐